

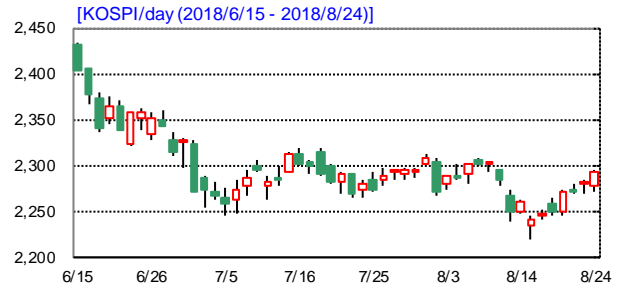


【韓国】 総合指数は週間で2.1%高と4週ぶり反発、今週は2300ポイント試すか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.1%高と4週間ぶりに反発した。指数は前週から24日まで6日続伸。終値は2293.21ポイントと、今月9日以来10営業日ぶりの高値で引けた。米国市場での半導体株高を手掛かりに主力ハイテク株が買われ、相場の上昇をけん引した。個別では、時価総額が大きいサムスン電子や半導体のSKハイニックスが週間ベースで上昇。造船・プラントの現代重工業も大きく買われた。23日に米国と中国が互いに160億米ドル相当の輸入品に対する追加関税を発動したが、市場の反応は限られた。今週は心理的節目の2300ポイントを試す展開か。米中貿易交渉の行方と米株式相場が注目材料となろう。一方、トランプ米政権の「ロシア疑惑」を巡る不透明感が強まれば、投資家がリスク回避に傾くリスクがある。

▼指数チャート

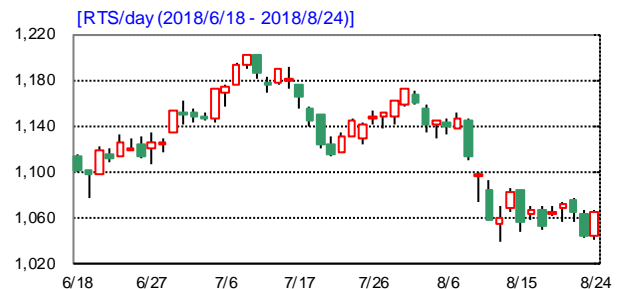


【ロシア】 RTS 指数は1.1%高と4週ぶり反発、今週も原油相場などが焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は1.1%高と4週ぶりに反発。通貨ルーブル安や米国による対ロ追加経済制裁が嫌気され、大きく下落する場面もあったが、原油相場の上昇が支援となり、週間では上昇した。週明け20日は原油高を好感し、指数は前営業日比1.2%高と反発。21日も0.6%高と続伸したが、22-23日に0.6%安、2.0%安と続落。米国による対ロ追加経済制裁が嫌気されたほか、ルーブルの対ドル相場が終値で2年4カ月ぶりの水準まで下落したことで台頭した資金流出懸念も相場を押し下げた。ただ、24日はブレント原油が一時2%超上昇したことやルーブルの反発を好感し、RTS 指数は2.0%高と反発。週間ベースでも4週ぶりの反発で取引を終えた。今週は原油相場や米国による対ロ経済制裁問題が引き続き焦点となりそうだ。

▼指数チャート

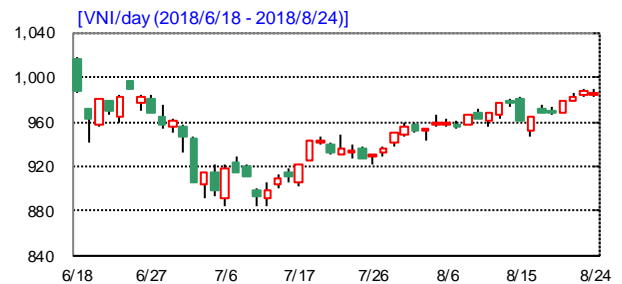


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.9%高と6週続伸、今週は堅調な展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.9%高と6週続伸。米中通商協議の再開見通しが好感されたほか、トルコリラの下げ止まりや主要通貨に対する米ドルの軟調な推移を受けた新興国からの資金流出懸念の後退が安心感につながった。VN 指数は前週の16日から23日まで6営業日続伸となり、6月25日以来の水準を回復。24日は前日比0.03%安とわずかに反落したが、週間では18.17ポイント(1.9%)高の987.05ポイントで終えた。金融のベトナム投資開発銀行が週間で7.4%高、エネルギーのベトナム石油総公社(ペトロリメックス)が5.9%高、ペトロベトナム・ガスが5.5%と好調で、不動産のヴィンホームズ(2.5%高)、食品のビナムミルク(2.3%高)なども指数を押し上げた。今週は米国の緩やかな利上げ見通しを背景に堅調な展開か。

▼指数チャート

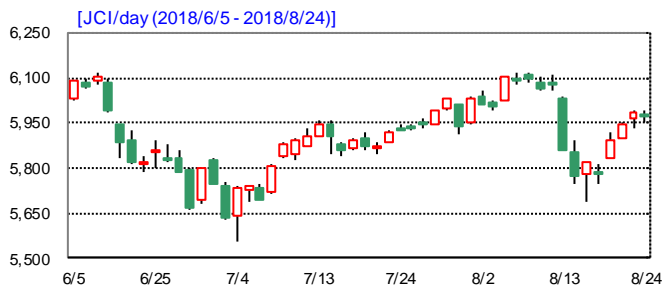


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 3.2%高、今週は 6000 ポイント回復に期待

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 3.2%高と反発。前週の反動で大きく買い戻された。連休明けの 20 日はアストラ・インターナショナルが指数上昇をけん引し、前営業日比 1.9%高と反発。21 日は貿易摩擦を巡る米中の事務レベル協議を控え、緊張緩和への期待感が高まったことで買われ、終値で 5900 ポイントを回復した。祝日を挟んだ 23 日も買い優勢の展開が続いたが、24 日は前日に終了した米中協議で成果が得られなかったことが嫌気され、4 日ぶりに反落して取引を終えた。今週も国内の経済イベントが少なく、31 日に発表される中国の 8 月の製造業 PMI など、外部要因が株式相場を左右しそうだ。

▼指数チャート

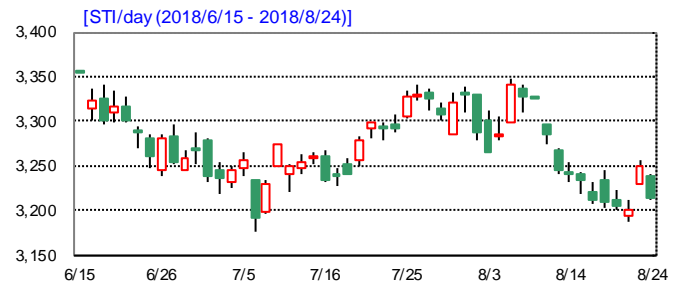


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.1%高、23 日に 10 日ぶり反発

ストレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 0.1%高と反発。週前半は売り優勢の展開が続いたが、23 日の 10 営業日ぶりの反発が奏功した。21 日は国内経済の先行き不透明感の広がりを受けて、金融株と消費関連株を中心に売られ、指数は終値で 1 カ月半ぶりに 3200 ポイントを下回り、9 日続落。一方、祝日を挟んだ 23 日は、シンガポール・テレコムが指数上昇をけん引し、前日比 1.6%高と反発した。ただ、24 日は 7 月の鉱工業生産が市場予想を上回ったものの、前日に上昇した反動が大きく、1.1%安と反落して取引を終えた。今週は 31 日に 7 月の銀行融資残高が発表される予定で、増加傾向が続けば好材料。

▼指数チャート

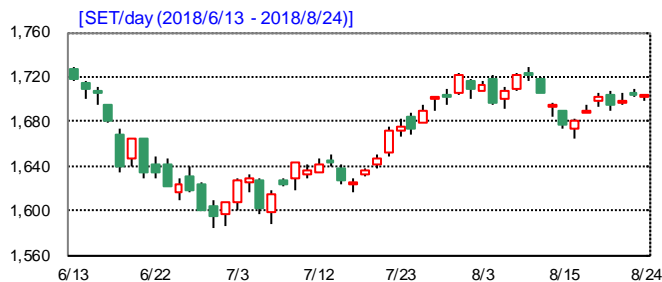


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%高、4-6 月期の GDP 成長率を好感

SET 指数は週間で 0.8%高と 3 週ぶりに反発。1 週間を通じて小幅なレンジでもみ合った。週初の 20 日は 4-6 月期の GDP 成長率が前年同期比 4.6%と市場予想を小幅ながら上回ったことが好感されて、終値ベースで 5 営業日ぶりに 1700 ポイントを回復。21 日は 4 日ぶりに反落した一方、22 日はエネルギー株が買われて反発した。同日に発表された 7 月の貿易統計（通関ベース）は貿易収支が 3 カ月ぶりに赤字に転落したが、影響は軽微だった。今週は 28 日に 7 月の鉱工業生産、31 日に 6 月の小売売上高が発表される予定。外部要因では、前週末に反落した原油価格の上昇傾向が続けば株式相場の追い風になる。

▼指数チャート

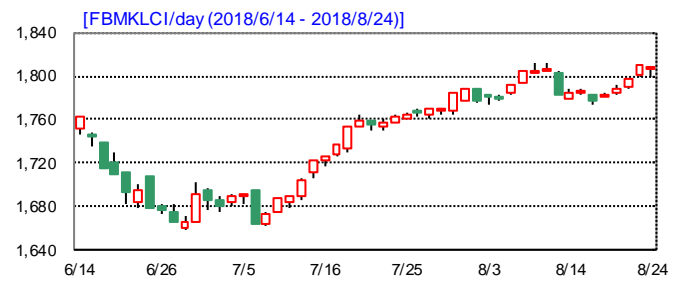


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.4%高、マハティール首相の中国訪問で上昇

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.4%高と反発。おおむね堅調に推移した。週初の 20 日は、北京を訪問したマハティール首相と中国首脳との会談に対する期待感から大型株が買われて指数は続伸。21 日は、首相が中国主導で進められていた大型インフラ事業の中止を発表したことを受けて建設株が大幅に下落したものの、消費関連株の上昇が指数を支えた。23 日も優良株が買われて 4 日続伸したが、24 日は米中の貿易協議で進展がなかったことが嫌気されて反落した。今週は、パウエル FRB 議長が前週末の講演で 9 月の利上げを示唆したことに対する市場の反応が焦点。31 日は独立記念日のため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。